

東郷町の地域課題についての検討（令和6年度第3回東郷町地域ケア推進会議）

「複合的な問題を抱えるケースへの介入支援について

～各々の立場から考える介入支援について～の意見集約（抜粋）

●連携のできる体制づくり

- ・職種や置かれている立場が違ふと考え方やケースの見え方が違ふ。対象者に関わる関係者が1つのチームになって個別チームを作れるとよい。
- ・対象者に関わるチームの全体を達観できる人（コーディネート機能）がいるとよい。担当者は自分の対象者の支援に一生懸命で、周りを冷静に見て考えることが難しい場合があるため。

→重層的支援体制整備事業に期待する意見あり

東郷町は令和8年度から重層的支援体制整備事業を本格実施予定（所管：福祉課）

●情報共有について

情報をいかに効果的に発信するか。必要な人のところに、必要な支援を届けることが大切。

「情報の共有」「情報の管理」「情報の統制」が肝となる。

【電子@連絡帳の活用】

- ・電子@連絡帳の患者支援機能は、対象者へ介入している各職種の動きが流動的に見えるためわかりやすい。
- ・電子@連絡帳のプロジェクト機能で誰でも投稿できる自由参加型地域ケア会議というプロジェクトを立ち上げる。なんでも発信でき、意見交換も活発。（日進市が実施している）

【関係者間での情報交換】

- ・民生委員と専門職との繋がり・連携が希薄。専門職が民生委員との距離がなかなか縮めることができない。

→民生委員の立場

- ・民生委員は地域の身近な情報を把握している。
- ・民生委員の役割は、何かに関わっていることはなく相談に応じている。相談の結果、どこかに繋ぐ必要がある場合、繋ぎ先が分かりにくいいため民生委員の公的マニュアルを作成し、民生委員全員に配布をした。
- ・「個人情報だから…」を理由に民生委員に情報が入らない。（ひきこもり、ヤングケアラーなどの子ども気になる人がどこでどのようなサービスを使っている、ケアマネジャーは要るのか否かなど）

●対象者の把握

- ・SOSが出せない人もいるため、自ら足を運んでいくことが大切。

- ・「個人情報」を理由に情報が入らないことがある。
- ・各々が現場で得た情報を繋ぐ。(ひきこもり、8050問題など)

●人材の活用について

- ・後見人の活用：後見人の活用が少ない状況。後見人について、正しい知識と理解が求められる。周知啓発が必要。
- ・医療の専門職（医師、看護師など）：対象者からのファーストコンタクトで受け入れが良い印象あり。訪問看護師がキーパーソンになりえることも多い。
- ・多職種：職種や置かれている立場が違ふと考え方やケースの見え方が違ふため、様々な職種で意見交換や情報交換をすることで新たな発見がある。

【今後の方向性】

- (1) 重層的支援体制整備の庁舎内の関係者打合せの場において、制度構築に関する意見を示す。
- (2) 専門職間の情報ツールとなりうる電子@連絡帳の利活用を進めるため、研修会の開催や日頃の業務内で電子@連絡帳の活用を積極的に行う。
- (3) 専門職と民生委員とのつながりの強化の第一歩として、多職種ミーティングの場を活用し専門職と民生委員の意見交換の場を設ける。多職種ミーティング及びカンファレンスに参加している専門職にアンケート聴取をした結果、民生委員の役割について知りたいという意見が多数あった。
- (4) 後見人について、周知啓発が不足しており、正しい知識と理解がない状況であるため、後見人に関して広報への記事掲載や市民後見人養成講座などの機会を得て、周知啓発を積極的に行う。
- (5) 職種の立場や視点を生かして、多職種で顔の見える関係性の構築を目指し、日常から意見交換や情報交換がしやすい環境づくりを行う。多職種ミーティングや多職種カンファレンスの場をはじめ、多職種のニーズに合わせて進めていく。